

どっこい、どっこいの掛け声で分かる方は暁の祭典の常連さんです。

湘南茅ヶ崎の夏の到来を告げる浜降り祭、茅ヶ崎市と寒川町の神社から約40基の神輿が茅ヶ崎西浜海岸に集まり、神輿が海に入る姿（みそぎ）を見ることができます。

昭和53年に神奈川県が無形民族文化財に指定されかながわ祭りの50選に選ばれています。浜降り祭の起源については所説あるみたいですが、江戸時代後期に幕府がまとめた「新編相模国風土記稿」によると鶴峰八幡宮では寒川神社のお礼参りの古い時代から、心身の罪や穢れを清める「みそぎ」の神事を行うため毎年浜辺の渡御が行われたとあります。両神社の伝承は古くから語り継がれ定着し明治9年（1976年）にこれまで6月29日に行われていた「みそぎ」神事を新暦の7月15日と定め、名称も浜降り祭と呼ばれるようになりました。

その様な伝統ある祭典に10数年前は海岸まで行き見学した事はあったのですが、2年前に当会の評議委員になり、自治会長として見学ではなく参加する事になりました。参加と言っても大役で、まず服装は人生で初めて着るダボシャツ上下・半纏・地下足袋。このいで立ちで高張提灯を持ち、菱沼八王子神社旗・神輿を先導するという格式高く名誉ある仕事です。

神社集合時間は当日午前2時、宮立は2時半、ここでまた大役が... お祝いの乾杯の音頭とりそして出発の合図。両自治会長（菱沼自治会・菱沼小和田自治会）がそれぞれ高張提灯を持ち神輿の担ぎ手の声も高らかにいざ目指すは海へ。どっこい どっこい、どっこい どっこい。

高張提灯持ちは6人が神酒所まで、それぞれ交代で先導して行きます。交通事情や時間の制限があるので神社から国道1号線まで先導し、神輿はトラックに載せて、関係者はバスにて134号線西浜海岸入口まで、そこから海までどっこい どっこい。それぞれの神輿がこの時とばかりに上下左右壊れんばかりに揺さぶられ、海に向かってまっしぐら。海の中では数基の神輿がしぶきをあげて大暴れ。やがて神事が行われる場所に集合し、セットする事朝の5時、約1時間の休憩（朝食）時間、そして40基前後の神輿が寒川神社の神主さんのお祓いを受け順番に帰路に向かって最終発、どっこい、どっこい。

神社の宮入が12時半過ぎ、長い一日でした。

みなさーん今年は海岸でお会いしましょう。どっこい、どっこい。